



## 院長 須藤 英仁

ようやく暑い夏も過ぎ、秋めいて参りました。皆様お変わりありませんでしょうか？

日本中が医師不足と言われている最中、当院では石田常博医師（乳ガン・甲状腺専門）と長澤武志医師（内科・糖尿病・内分泌）の二名の増員が出来、本当にありがたく思っております。これも患者さんや地域の皆様のおかげと感謝しております。

さて当院では、6月より新病院の建築をはじめ、現在2階部分の基礎工事にかかっているところです。新しい病院のシステムを考えるとIT化という非常に大きな波があり、導入せざるを得ないところです。おそらく、電子カルテ・再来の自動受付・自動支払機など、これまで全て受付職員が行っていた業務がIT化されると思います。私はIT化というものを考えるときの鉄則は、これら機械の導入で患者さんが便利にならなければいけない、安全・

安心がさらに確保されなければいけない、ということです。決して機械に使われてはならないと思います。

よく話題となる事は、電子カルテを導入すると、医師は画面ばかり見ている患者さんの顔を見ない、体を見ないなどの問題がよくでます。これはもつてのほかで“手当てをする”が医療の基本中の基本です。患者さんの体を診察し、診断することが最も大事で、コンピューターに入っているデータだけでは決して充分ではありません。これらのことは今後も全職員に徹底していきたいと思っております。なれない時期は多少時間の掛かることもあるかと思いますが、ご理解のことよろしくお願い致します。幸い当院では、別な場所での開設となりますので、運用につきましては十分にトレーニングを行い、安全に移行していきたいと思っております。

また設備的には64列のCTスキャン、1・5テスラ以上のMRIなどの導入も決まっております。64列CTスキャンは動いている心臓の冠動脈撮影が可能となり、狭心症などの診断に非常に役立つと思っております。

なにはともあれ、決めることが山積みであり、少しでもよい病院にし、患者さんに喜んでいただけるように頑張っていきたいと思っております。工事につきましては中河原の近所の皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。先

日も駐車場に向かう職員が裏の細い道を、スピードを上げて運転していたとお知らせを受けました。すぐにその職員を呼び厳重に注意をしました。今後ともしっかり指導してまいります。

新病院について色々申しましたが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



航空写真（H19.09.29撮影）



病院正面側

# よりよい看護体制を 目指して

## 看護師長 佐藤明美

当院では看護配置7対1を取得しています。7対1とは看護師1人が7人の患者を受持つ体制です。欧米では看護師1人で患者1人が当たり前なので、日本は患者・看護師ともに厳しい状況であります。とはいえ、10対1であった時とは看護師の人数は増えているのですから、よりよい

看護を提供しなくてはなりません。

現在病棟では看護体制の見直しを行っており、24時間なるべく平均して人員を配置し、看護が手薄にならないように検討しております。看護師が業務を行うだけでなく、看護とは何かを考えられる職場を作りたいとかんがえています。忙しさに負け患者さんの対応がおろそかにならないよう、今後も教育と体制作りを力を入れていく考えです。皆様からのご意見も参考にしていまいますので、よろしくおねがい致します。

## 祐&純の建築現場探訪



クレーンの高さが分かる一枚



現場はヘルメット着用です。



橋向こうの建築現場まで自転車でひとつぱしり。



秋空つかの間の晴れ間に取材に向かいました。



記念撮影Ⅱ  
V(^0^)V



裏手側より撮影。この間までは1Fのみ本当にはや！



工事はかなり進んでいる様子です。



記念撮影 V(^0^)V



外壁見本発見！渋い色になるようです。



一般人は建物中にはまだ入れません。



裏手パートⅡ ここが例のあれになるんだ…